

令和元年台風第19号による被害対応について

1. 最新の被害状況（総務省消防庁2月12日9:00発表）

<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/taihuu19gou65.pdf>

2. 各地の情報共有会議（2月12日現在）

発災直後より、地元の団体を中心に各地で支援関係者による情報共有会議が開催されてきましたが、2月に入って回数や開催場所なども変更されてきています。これまでの対応の検証なども始まる中、地元団体、地元住民への参加呼びかけや今回の対応を振り返りながら、平時の体制作りを検討し始めている地域も出てきています。

3. 各被災地の状況・課題について

JVOADとして、各地にスタッフを派遣しながら、地元のネットワークとの連携や情報共有会議等から支援状況や課題を把握し、サポートしています。

宮城県	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月17日より災害VC支援連絡会議が行われており、行政、社会福祉協議会、地元の中間支援組織、NPOなどが参加、現在県域の会議は実施されておらず、丸森町で町域の情報共有会議が行われている ・1月29日、大雨による避難勧告が出され、一時避難所10か所（避難者11名）となったが大きな被害は出なかった <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床下・壁対応 ・在宅避難者の把握
福島県	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふくしま連携復興センターの呼びかけで情報共有会議を開催していたが、現在はいわき市と郡山市で市域の情報共有会議が開催 ・いわき市では、生活支援相談員3名が2月から在宅訪問を実施 ・いわき市の応急修理の申請期限が2月28日まで延長、公費解体の申込は339棟 ・いわき市内の避難所は1月25日に閉鎖、居住先は決まっているが、家電などがそろっていない人もいるので、支援団体の方で継続してサポートしていく ・複数のサロンが実施されており、制度や家屋再建などの相談の場となっている、情報共有会議にて支援者への参加呼びかけがなされている ・弁護士会では、移動相談室（車）を準備し、各サロンに参加予定 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床下・壁対応 ・在宅避難者の状況把握

<p>栃木県</p>	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、台風 19 号支援に関する情報共有会議を 2 月末に開催する方向で調整中 ・震災前から検討していた「災害時ボランティア活動支援体制づくり」に向けての議論が始まっている、今回の動きを検証する中で、今後の体制について引き続き検討していく ・佐野市では、地元のボランティア有志が集まり「さのボラねっと」を立ち上げ、ボランティアセンターとも連携しながら、泥出しやニーズ調査を実施 ・宇都宮市では、複数の支援団体が協力して炊き出し、家屋再生勉強会を継続的に実施 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床下・壁対応 ・在宅避難者の状況把握
<p>茨城県</p>	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨城県社会福祉協議会、茨城 NPO センター・コモンズ主催で、災害支援いばらきネットワーク会議（情報共有会議）を定期的に開催 ・常陸太田市では、大規模半壊の世帯が多く、床をはがした後の工事待ちのお宅も多いため、サロン（ぬくもりを届けるプロジェクト）実施に向け調整中 ・各団体が連携して、各市町の支援制度を調べてまとめ、それらを分かりやすく冊子にして住民に配布してはどうか、とのアイデアが出されている ・県の配分委員会（義援金）が開催 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床下・壁対応 ・在宅避難者の状況把握
<p>長野県</p>	<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 月 14 日から定期的に情報共有会議が開催、これまで週 1 回（毎週月曜日）で開催していたが、2 月からは北部と南部に場所を移して、住民にも参加を呼びかけ実施していく ・災害時支援ネットワークのメンバーでもある、長寿社会開発支援センターによるシニア大学で、今後のボランティアとして参加者のマッチングを実施 ・被害の大きかった地域では、地域の集会室の 2 階を利用してサロンなどが実施 ・支援団体の拠点には、継続的に家屋修繕の依頼や相談があるため、VC の空いていない平日にもボランティアを受け入れ、関係団体と連携しながら作業を行っている ・農ボラ 2 期の募集を行っているが、2 月 16 日（日）のみの活動 ・情報共有会議の中で、住民自らがサロンの実施を検討していること、これまで止まっていた活動を再開する動きがみられることが共有された ・地域による支援の差がみられるようになってきた <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床下・壁対応（特に床下被害の多い地域など）

	・在宅避難者の状況把握
その他の地域	<p>千葉県：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋根の本格修理が終了するまで、長期にわたってブルーシートでの応急対応、張り直しが必要になる ・千葉南部災害支援センター協力のもと、千葉県・JVOAD 主催で技術系支援団体を講師として、消防職員、消防団員、建築業者等を対象に、ブルーシート展張講習会を実施（期間は2月21日～3月15日を予定） ・課題として、雨漏りによるカビなどが発生

4. 災害ボランティアセンター

災害ボランティアセンターに関する情報については、全国社会福祉協議会のホームページにて確認ください。現在開設されているセンターは、全て事前登録が必要となっているので、活動希望の際は各地域のHPにてご確認ください。

URL: <https://www.saigaivc.com/typhoon201919/>

5. 今後のJVOADの対応について

引き続き、JVOADスタッフならびに応援スタッフが、長野県には常駐、その他地域については出張ベースで、関係団体と連携しながら、各地の情報共有会議等であがった課題について共有し、解決に向けたコーディネートを行っています。在宅避難者の状況把握や生活再建に向けた課題等もまだありますが、今回の対応を踏まえた平時の体制作りなどへのサポートも始まっています。

以 上